

鹿児島県総合教育センター

平成29年度長期研修研究報告書

研究主題

主体的な学びを促進する中学校外国語指導の
在り方

—課題設定と評価の工夫を通じた、コミュニケーションを図ろうとする
態度の育成を目指して—

始良市立加治木中学校
教諭 山口 祐介

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	1
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	1
3	研究の計画	2
III	研究の実際	2
1	研究主題に関する基本的な考え方	2
2	実態調査	2
(1)	実施状況	2
(2)	実態調査の結果と分析	3
3	主体的な学びを促進するための授業の構想	4
(1)	研究の構想	4
(2)	学習意欲の向上につながる課題設定の工夫	4
(3)	見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫	4
4	検証授業Ⅰの実際	4
(1)	単元名及び実施時期等	4
(2)	検証授業Ⅰ実施上の工夫	5
(3)	検証授業Ⅰの実際	8
(4)	検証授業Ⅰの手立てに関する成果と課題	11
(5)	検証授業Ⅱに向けて	11
5	検証授業Ⅱの実際	12
(1)	単元名及び実施時期等	12
(2)	検証授業Ⅱ実施上の工夫	12
(3)	検証授業Ⅱの実際	15
(4)	検証授業Ⅱの手立てに関する成果と課題	19
6	生徒の変容と考察	20
(1)	授業後の実態調査の結果から	20
(2)	リフレクションシートから見る，研究に基づく手立てによる生徒の変容	20
IV	研究のまとめ	22
1	研究の成果	22
2	研究の課題	23
3	今後について	23
	引用・参考文献	

I 研究主題設定の理由

本研究は、中学校外国語科において、生徒の主体的な学びを促進するための学習指導の在り方を明らかにするものである。

本校では、生徒のコミュニケーション能力の基礎を育成することを目指した指導を実践し、学校全体として学習内容の定着が見られている。しかし、学習内容を基に、主体的に学びに向かう態度をもつ自律した学習者を育む段階には至らない部分がある。特に、英語に苦手意識をもつ生徒の指導においては、内容理解や学習内容の定着を重視した指導に偏り、授業を通して、生徒の英語への学習意欲を高め、生徒が自分の考えを表現する楽しさを感じることが出来る機会が少ないことが課題である。

このような実態を踏まえ、生徒に主体的に学習に取り組ませるためには、「英語が使える」、「学んだことを英語で発信したい」という自信と意欲を育む指導の工夫が必要である。そのために、コミュニケーションを行う目的や場面を明らかにした言語活動に取り組ませ、授業で学んだことを活用して「自分にもできた」という達成感を味わわせ、目的達成の成功体験を積ませることが生徒の学習意欲を高め、主体的に英語学習に取り組む態度の育成につながると思われる。

本研究では、英語に苦手意識をもつ生徒を対象として、先行研究と実態調査に基づき、次の二つの視点を中心に授業を設計し、英語学習への意欲を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を育む指導の在り方を明らかにする。第一の視点は、課題設定と提示の工夫である。生徒に、単元を通したコミュニケーションを行う場面と目的を十分に理解させ、言語活動に取り組ませることで「英語を使って目的を達成できた」という成功体験を積ませ、英語が使える自信を育てる工夫を取り入れる。第二の視点は、自身の成長の自覚を促し、見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫である。授業を通した自身の変容を「何が分かり、何ができるようになったか」等の視点から生徒に振り返らせることで、授業を通した成果と課題を明らかにさせ、見通しをもった学習に取り組む姿勢を育成する工夫を取り入れる。

このような工夫を授業に取り入れることで、生徒の英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、主体的な学びの促進につながるかと考えて、本主題を設定した。

II 研究の構想

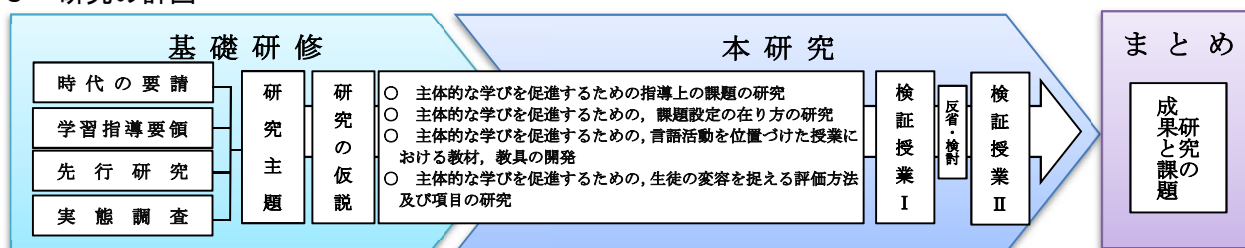
1 研究のねらい

- ア 先行研究や実態調査の結果から、英語学習における主体的な学びを促進するための指導上の課題を明らかにする。
- イ 主体的な学びを促進するための、課題設定の在り方を明らかにする。
- ウ 主体的な学びを促進するための、言語活動を位置付けた授業における教材、教具を開発する。
- エ 主体的な学びを促進するための、生徒の変容を捉える評価の在り方を明らかにする。
- オ 仮説を検証するための検証授業を実施し、研究の成果と課題を明らかにする。

2 研究の仮説

英語の授業において、コミュニケーションの場面や目的を明確にした課題設定の工夫と、見通しをもって学習に取り組ませるための評価の工夫を行うことが、生徒の学習意欲を向上させ、主体的に学びに向かう姿勢の育成につながるのではないかと考える。

3 研究の計画



III 研究の実際

1 研究主題に関する基本的な考え方

『中学校学習指導要領解説外国語編』*1)では外国語を通した「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことを目標として、小学校外国語活動で育まれたコミュニケーション能力の素地の上に、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」、の4技能をバランスよく育てることの必要性が強調されている。そして、4技能の統合的な育成を通して、生徒の言語や文化に対する理解の深まりや積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることが重要であるとしている。

本校においても、前述したように、コミュニケーション能力の基礎を育成することを目的とした指導を行っているが、生徒の学習意欲を向上させ、主体的に学習に向かう態度を育成することには課題がある。後述する実態調査でも、多くの生徒が、学習した内容は実際のコミュニケーションの場面で活用できるという認識が低く、さらに将来英語を使う必要性は理解しているが、自分の生活と関連することは無いという認識を示している。また、平成28年度『英語教育改善のための英語力調査事業(中学校)』報告書*2)の中でも、「公立の中学校の多くの生徒が英語学習に対して好意的なイメージをもっていない」として、「英語の学習を『好き』にさせる指導や評価を行っていくことが重要である。」とまとめている。このような状況を踏まえて、本研究では英語に苦手意識をもつ生徒を研究対象として、生徒の主体的な学びを促進するための指導の在り方について研究を進めることにした。

本研究における「主体的な学びを促進する指導の在り方」とは、生徒が英語学習で習得した知識や技能を活用した言語活動を通して、英語の学習意欲を高め、主体的に学びに向かう姿勢を育てるための授業の工夫の在り方と捉える。具体的な手立てとして、コミュニケーションを行う場面や目的を明確にした課題設定の工夫と、見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫を中心に、英語に苦手意識をもつ生徒の学習意欲の向上から、積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目的として研究する。

2 実態調査

(1) 実施状況

ア 実施の目的

英語の学習や使い方に対する本校生徒の意識を把握し、英語に苦手意識をもつ生徒が英語学習においてどのような点でつまづきを感じているかを把握し、生徒の学習意欲を促すための授業の在り方について具体的な手立てを考察し、研究の方向性を探る。

イ アンケート実施時期

平成 29 年 6 月

ウ 実施対象

始良市立加治木中学校 2 学年全体 181 人

*1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 2008年

*2) 文部科学省 『英語教育改善のための英語力調査事業(中学校)』報告書 2017年

(2) 実態調査の結果と分析

(平成 29 年 6 月実施 対象:第 2 学年全体【181 人】と対象生徒【Basic コース 10 人】)

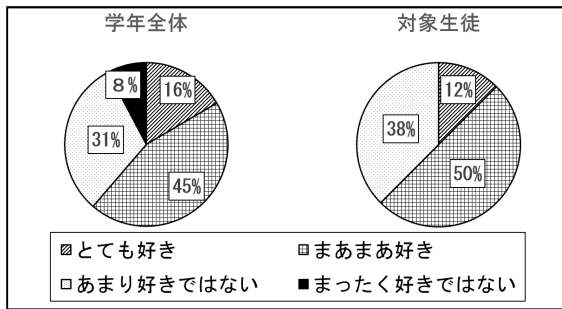


図 1 英語の授業が好きか

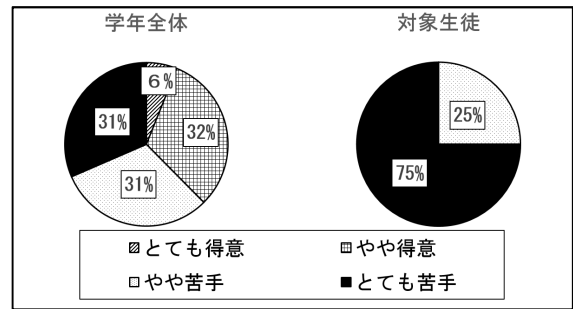


図 2 英語は得意か、苦手か

図 1 の「英語の授業が好きか」という質問には、学年全体と対象生徒の半数以上の生徒が「とても好き」、「まあまあ好き」と肯定的な回答をしている。しかし図 2 の「英語は得意か、苦手か」という質問には、学年全体では「とても得意」、「やや得意」と肯定的な意見も見られるが、対象生徒は全員が「やや苦手」、「とても苦手」と否定的な回答をしている。対象生徒の授業の様子からも、授業中の取組に意欲は見られるが、英語の正しい使用に自信がなく、実際のコミュニケーションの場面で学習した内容を生かしきれていないと感じていることが分かった。

図 3 は「将来、どの程度の英語力を身に付けたいか」という質問への回答である。学年全体と対象生徒ともに、多くの生徒が海外旅行を楽しめる程度の英語力を身に付けたいと回答している。さらに、「外国に住む」、「英語で仕事をする」と回答した生徒も少なくない。図 1 の「英語の授業が好きか」という質問への回答と同じように、英語を使うことへの興味・関心の高さが分かった。

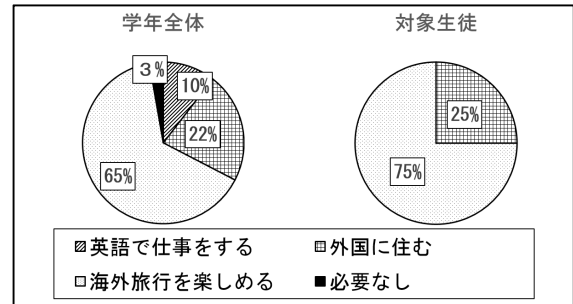


図 3 どの程度の英語力を身に付けたいか

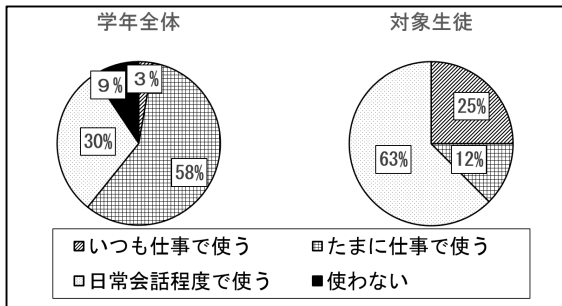


図 4 将来の社会では、どの程度英語を使うか

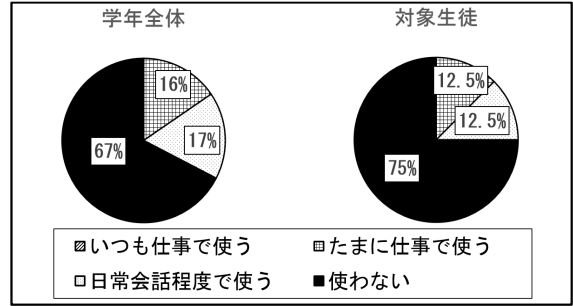


図 5 将来、あなたはどの程度英語を使うと思うか

図 4 は「将来の社会では、どの程度英語を使うか」という質問への回答である。学年全体と対象生徒の多くが、将来の社会で英語を使うと考えていることが分かるが、図 5 の「将来、あなたはどの程度英語を使うと思うか」という質問には、学年全体と対象生徒の半数以上が「使わない」と回答し、英語が将来の自分の実生活と結びつき、将来の生活で必要であるという認識が希薄であり、英語を学ぶこと理由や目的を明確に捉えられていないことが分かった。

以上のことから、英語に対して苦手意識をもつ生徒の学習意欲を向上させるためには、生徒にどのような場面で、何を目的として英語でコミュニケーションを図る必要があるかという認識をもたせて、将来英語を使う姿を想定させることが有効であると考えた。そして、授業での取組において、学んだ内容を活用して生徒に「英語を使えた」という経験を得させることが、主体的に学びに向かう姿を育むことにつながると考える。

3 主体的な学びを促進するための授業の構想

(1) 研究の構想

実態調査の結果の注目すべき点として、多くの生徒が将来の英語の必要性は理解しているが、英語を使うことを実生活と結び付けられず、具体的な英語の使用場面を想定できていないことが分かった。この理由として、英語に苦手意識をもつ生徒の多くが、授業で学んだ表現を機械的にアウトプットすることだけに留まり、学習した内容を実生活で活用できた経験が少ないことが考えられる。そこで、本研究では、コミュニケーションを行う場面や目的を十分に理解させて言語活動に取り組みさせるための学習意欲を促す課題設定の工夫と、活動を通じた成長を実感させ、見通しをもった学習に取り組みさせるための評価の工夫という二つの視点から、英語に苦手意識をもつ生徒の学習意欲を高め、主体的な学びを促進するための授業を実践する。

(2) 学習意欲の向上につながる課題設定の工夫

実態調査の結果を踏まえて、英語に苦手意識をもつ生徒に、授業で学んだ学習内容は実際のコミュニケーションの場面で役立つことに気付かせ、目的意識をもって活動に取り組みさせるためには、コミュニケーションの場面や目的を明らかにした学習課題の設定の工夫が有効と考えた。コミュニケーションを行う具体的な目的・場面・状況等を十分に生徒に理解させ、それらに応じた言語活動を通じた課題解決による成功体験を積み重ねていくことが、学習意欲の向上につながると考える。

また、英語に苦手意識をもつ生徒は、英語での自己表現に自信がなく、発言にためらいを感じる人が多い。そこで、授業開始時の帯活動で、既習内容を用いて、授業中の言語活動で活用できる表現を練習させる工夫を取り入れる。具体的には、単に語彙や文法を機械的に質問するのではなく、生徒の英語への苦手意識に配慮しながら、平易な質問からやや難解な質問へと段階的に発問をしたり、ゲーム性を取り入れたりするすることで、生徒が活動を楽しみながら積極的に発言できるようにする。単元を貫く帯活動を通して、生徒に既習の学習内容を使って表現できることへの自信と間違えてもいい雰囲気を作り、実際のコミュニケーション場面でも使えることへの気付きを促すことで、英語を使って表現する学習意欲の向上につながると考える。

(3) 見通しをもった学習に取り組みさせるための評価の工夫

英語に苦手意識をもつ生徒に、授業を通じた成長を実感させ、今後の学習につながる評価を行うには、彼らが授業を通して「何が分かり、何ができるようになったのか」等の観点を明確にし、自身の成長への自覚を促すことが必要である。そこで、本研究では、授業を通じた生徒の成長を、指導者が的確に捉えて、一人一人に即した学習過程や成果を評価するために、授業の終末場面での学習の振り返りの時間の充実を図ることとした。指導者が生徒に自身の学習への取組を客観視させ、学習の成果と課題を実感させることで、生徒が次の学習を見通し、課題意識をもった学習に取り組むことにつながると考える。

4 検証授業 I の実際

(1) 単元名及び実施時期等

ア 単元名「Unit 3 Activity 2 夢の世界旅行」

イ 実施時期及び実施クラス

平成 28 年 7 月、2 年 4 組 (10 人)

ウ ねらい

将来行きたい国について英語で相手に伝えるために、様々な国について知り、学習内容への興味・関心を高め、単元を通して学んだ言語材料を用いて、行きたい国について紹介する英文を作成し、ALT に紹介する。また、活動を自己評価させ、次の学習への意欲をもたせる。

(2) 検証授業 I 実施上の工夫

本研究における視点を基に、検証授業 I の各時の手立てを次の表のようにまとめた。

研究の視点	研究の視点と関連した手立て
学習意欲の向上につながる課題設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旅行パンフレットやICT機器を用いて「世界の国々を知る」活動を通した、課題設定の工夫 ○ 学習への自信をもたせる帯活動を位置付けた授業設計
見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ プレテスト、ポストテストの実施 ○ リフレクションシートの活用

ア 学習意欲の向上につながる課題設定に関すること

(ア) 旅行パンフレットや ICT 機器を用いた課題設定と提示の工夫（第 1 時の導入）

単元の学習目標を「将来行きたい国を ALT の先生と伝え合う」と設定し、コミュニケーションの目的と場面を十分に理解させるための課題設定の工夫として「世界の国々について知る」という活動で単元の導入を行った。図 6 の「加治木トラベル」の旅行パンフレットを教材として提示し、タブレット端末を用いながら世界の国々や観光名所について知る活動を行った。指導者が、世界の

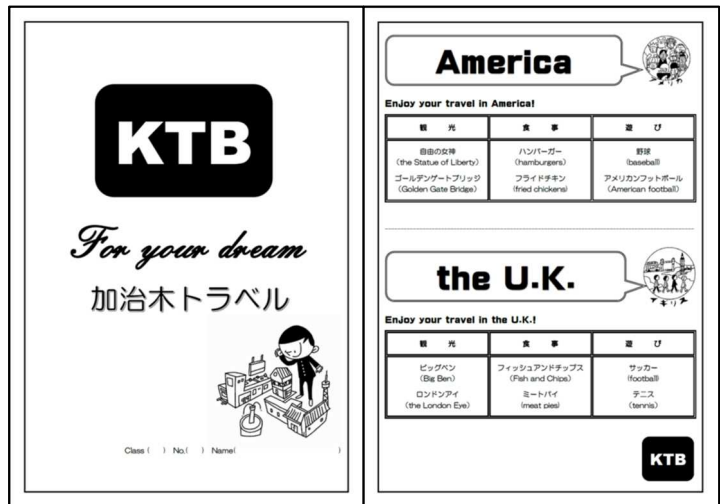


図 6 架空の旅行パンフレット

国々の情報が書かれたパンフレットや実際の映像をモニターで見せながら、世界の国々の特色や文化を学ばせ、知的好奇心を促すことで、コミュニケーションの目的の把握と、生徒の英語に対する学習意欲の高まりにつながると考えた。

(イ) 学習への自信をもたせる帯活動を位置付けた授業設計

検証授業 I では、生徒の学習意欲の向上を図るために、授業開始時の帯活動として既習事項の確認や前時の復習の英問英答を行うことや、ゲーム性をもたせた活動を取り入れる等の工夫を取り入れた。楽しみながら積極的に英語を発話できる工夫を取り入れることで、生徒が間違いを恐れずに発言できるように学習への自信をもたせることに留意した。帯活動を通して、英語での成功体験を少しずつ積み重ねていくことによって、英語が使えるという自信につながり、学習意欲の向上に結びつくと考えた。

a 授業で中心的に扱う既習の学習内容を想起させる活動（第 1 時）

- 活動の理由
 - ・ 「～を訪れる」という授業の中心的な動詞と「～したい」という不定詞を組み込んだ英文の作り方を理解させるため。
- 学習の流れ
 - ・ 図 7 のように国旗とその国の有名なものが示された画像をモニターに提示する。
 - ・ 1 回目は、動詞 visit を使って「～を訪れる」“Ex) I visit America.”という英文を言わせる。

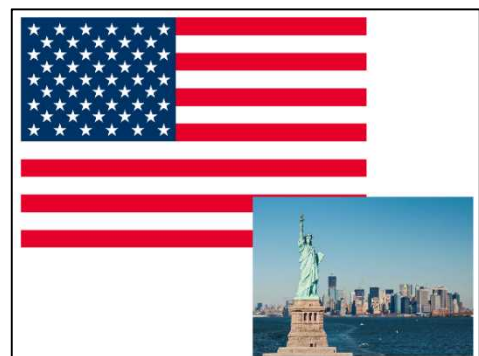


図 7 第 1 時で提示した画像例

- ・ 2回目は、不定詞を組み合わせて「その国を訪りたい」「I want to visit America.」という英文を発話させる。
 - ・ 発問の終了後は、教師の発音に続いて、全員で発音の練習をさせる。
- b 行きたい国を紹介する表現の定着を行う活動（第2時）

○ 活動の理由

- ・ 授業で言語活動を行う上での中心的な言語材料が不定詞を用いた表現のため。
- ・ 対象生徒に不定詞を用いた表現に十分に慣れ親しませるため。
- ・ 帯活動にゲーム性をもたせることで、英語学習の苦手意識を軽減させるため。

○ 学習の流れ

- ・ 教師は**写真1**の国旗付きの国名カード（5枚）とそれぞれの国の特色がイラストとキーワードで書かれたカード（5枚）を黒板に貼る。



写真1 国合わせカードゲームの教具

- ・ 1回目は、国名カードだけを使って、生徒に1枚カードを選ばせ、「○○（国）に行きたい（訪れたい）」「EX) I want to visit China.」という答えを言わせる。
- ・ 2回目は、国の特色カードだけを使って、カードに書かれた絵を見ながら「～がしたい」「Ex) I want to see Pandas.」という答えを促す。
- ・ 3回目は、国カードから1枚、国の特色カードから1枚選ばせて、「～をするために○○に行きたい（訪れたい）」「Ex) I want to visit China to see Pandas.」という不定詞を用いた英文を作らせる。

イ 見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫

(7) プレテスト、ポストテストの実施（第1時、第2時）

プレテスト、ポストテストは**図8**のような形で実施した。実態調査の分析の結果、対象の生徒の多くが自身の英語のテストの成績不振により英語学習に対する苦手意識をもったことが明らかになった。

そこで、検証授業Iでは学習内容の定着を見取り、学習を通じた自身の成長を実感させるためにプレテストとポストテストを実施した。出題は単元で中心的に学習した単語や文法から行った。授業を行う前のプレテストと授業後のポストテストの結果から、学習の振り返りと内容の定着の確認を行い、生徒に自身の成長を実感させることで、英語に苦手意識をもつ生徒に学習の達成感を感じさせることができた。返却時には指導者が、生徒の誤答に対するアドバイスを添えて返却した。生徒の学習のつまずきに対して客観的な気付きを与えることで、次の学習に前向きに取り組ませるように工夫した。

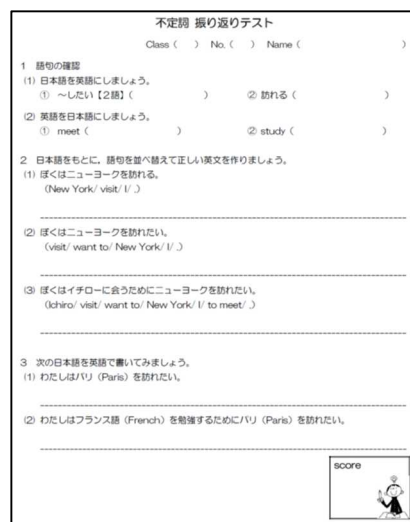


図8 ポストテスト

各生徒のプレテストとポストテストのスコア比較は表1の通りである。

表1 各生徒のプレテストとポストテストのスコア比較（9点満点）

生徒	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
プレ	8	6	9	欠席	4	8	7	7	8	6
ポスト	9	9	6	1	9	9	8	9	9	9

授業前後の結果を比較した結果、ほとんどの生徒が授業前に比べて点数を伸ばすことができた。生徒Eは授業前からスコアを大きく伸ばし、授業後には満点を取れた。このような経験を多く積ませることで、英語学習に自信をもたせたい。一方、生徒Cは授業前は満点だったが、授業後に点数を下げた。生徒Cの答案からは、本単元で取り扱った不定詞の文法への理解と定着が見られたが、全体の文の構成として主語の後ろの動詞に、三人称単数のsやesを付け忘れるミスが見られ、既習内容の振り返りと指導者の学習の見届けの必要性を感じた。

(4) リフレクションシートの活用

リフレクションシートは図9のような形式で作成し、実施した。学習を通じた自身の変容を実感させるために、授業の取組を自己評価させ、客観的に振り返らせることで、生徒が授業を通じた成果を実感し、課題を把握し、次の学習への意欲をもつことにつながると考えた。リフレクションシートの作成にあたっては、授業中の主な活動を振り返らせる欄と授業の感想を記述させる欄を設け、学習の振り返りを充実させる工夫を行った。

また、返却時にはプレテストとポストテストと同様に指導者から、生徒の授業中の活動についてのコメントをリフレクションシートに添えて返却した(図10)。学習に満足感を得られたと記入した生徒には、英語を楽しんで学習することの大切さを学べたことへの賞賛のコメントを記入し、発表がうまくいかなかったと記入した生徒には、指導者から見たその生徒の授業中の取組の良かった点を伝え、次の活動への自信をもたせることに留意した。

＜英語のゲーム：単語や文のクイズ、国名当て、カードを使った英文作り＞	
1	ゲームを通して、英語を学習することで、英語にとても興味もてた。
2	ゲームを通して、英語を学習することで、英語に興味もてた。
3	ゲームを通して、英語を学習しても、あまり英語に興味もてなかった。
4	ゲームを通して、英語を学習しても、英語に興味もてなかった。
＜友だちやリー先生の英語でのインタビュー活動を通じた理解＞	
【英語の理解】	
1	友だちと協力して活動することで、英語がとても理解しやすくなった。
2	友だちと協力して活動することで、英語が理解しやすくなった。
3	友だちと協力して活動したが、あまり英語が理解しやすくなかった。
4	友だちと協力して活動したが、英語が理解しやすくなかった。
【友だちとの活動での自分の姿】	
1	友だちと協力しながら、自分から進んで活動に参加することができた。
2	友だちと協力しながら、活動に参加することができた。
3	友だちと協力しながら、活動することがあまりできなかった。
4	友だちと協力しながら、活動することができなかった。
＜まとめのテスト＞	
1	授業の最後に、習った内容を確認すると、英語がとてもできるようになった。
2	授業の最後に、習った内容を確認すると、英語ができるようになった。
3	授業の最後に、習った内容を確認しても、あまり英語ができるようにならなかった。
4	授業の最後に、習った内容を確認しても、英語ができるようにならなかった。
＜外国への興味について＞	
1	授業を受けて、外国人と話したり、他の国々について知りたいととても思った。
2	授業を受けて、外国人と話したり、他の国々について知りたいと思った。
3	授業を受けたが、外国人と話したり、他の国々について知りたいとあまり思わなかった。
4	授業を受けたが、外国人と話したり、他の国々について知りたいと思わなかった。


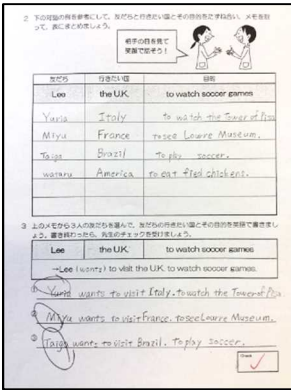
図9 リフレクションシートの一部


【授業の感想や反省】	
難しいところや、何をやっても苦手なところが、ゲームやALTのサポートを通して少しずつ克服することができました。カードや絵のイラストという資料もとても楽しく学習することができました。	
【授業の満足度】	【From Mr. Yamaguchi】
☺ Good () so so () bad	英語の力が感じられるようになった。リスニングも少しできるようになった。英語の勉強は、最初は難しいけど、頑張ればできるようになる。

図10 リフレクションシートの生徒の感想記入欄


(3) 検証授業 I の実際

ア 第1時

学習過程	学習活動	時間配分	指導上の留意点 □ 評価及び評価方法
導入	<p>1 英語で元気よく挨拶をする。</p> <p>2 口頭での一問一答のクイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モニターの画像に関する英文を答えさせる活動 <div data-bbox="678 488 930 674">  </div> <div data-bbox="391 600 673 674"> <ul style="list-style-type: none"> ・ I visit Italy. ・ I want to eat pizza. </div> <p>生徒の発話例</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容と関連した発問をすることで、学習内容に対する関心を高め、重要表現の振り返りを行う。
展開	<p>3 本時の目標を確認する。</p> <div data-bbox="427 757 778 831" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分の行ってみたい国を紹介する準備をしよう。 </div> <p>4 教師が行ってみたい国を英語で紹介するのを聞き、内容を聞き取る。</p> <p>5 国紹介に必要な不定詞を用いた英文の作り方を振り返り、確認する。</p> <p>6 教科書を見て、世界の国と名所を確認し、英語での発音練習をする。</p> <p>7 自分の行ってみたい国とその目的について英語で書く。</p> <p>8 お互いの行ってみたい国とその目的を尋ね合い、相手のことについてメモを取る。</p> <div data-bbox="502 1630 794 2018">  </div> <p>使用したワークシート</p>	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を意識させる。 ・ 不定詞を用いた表現に意識させ、正しく聞き取らせる。 ・ 既習内容を振り返らせ、英文の作り方を成時の注意点を明確にする。 ・ 世界の国や名所への興味を高めさせ、それぞれを正しく発音させる。 ・ 一人一人が正しく英文を書けたかを見届け、次の活動への自信をもたせる。 ・ 書いた文を読ませるだけではなく、コミュニケーションの場面で大事な点をスライドで示して意識させ、活動を行わせる。 <p>□ 間違いを恐れずに、積極的に相手に行きたい国を紹介しようとしたか。</p> <p>□ 適切な音量や明瞭さで発表できたか。</p> <div data-bbox="1050 1973 1390 2024" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価方法：発表の態度の観察 </div>

終末	9 友だちとの対話の内容を基にして、相手の行ってみたい国とその目的について英文で書いてまとめる。	 <p>次時の活動のモデル動画</p>	15分	<ul style="list-style-type: none"> 英文作成後の見届けを行い、生徒の変容を評価する。 <input type="checkbox"/> 不定詞を正しく理解し、三人称単数を組み合わせた英文の作成ができたか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 評価方法：ワークシートの記述内容 </div>
	10 次時のALTとの対話のモデル動画を見て、活動で気を付ける点を確認する。			<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を振り返らせ、次時の活動への期待感を高める。


イ 第2時

学習過程	学習活動	ALTの役割	時間配分	指導上の留意点
	生徒の活動			<input type="checkbox"/> 評価及び評価方法
導入	1 英語で元気よく挨拶をする。	1 英語で元気よく挨拶をする。	6分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容と関連した発問をすることで、学習内容に対する関心を高め、重要表現の振り返りを行う。
	2 既習内容を振り返るために国合わせゲームをする。	2 既習内容を振り返らせるために国合わせゲームをする。		
 <p>国合わせゲームの様子</p>		生徒の発話例		
展開	3 本時の目標を確認する。	3 本時の目標を確認させる。	34分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を意識させる。 一人一人が正しく英文を書けたかを見届け、次の活動への自信をもたせる。
	4 ワークシートを用いて、ペアで自分と相手の行きたい国とその目的をそれぞれ書いて、正しく書けたか教師のチェックを受ける。	4 生徒の活動を補助し、正しく書けたか確認する。		

1 前の時間に使った表現を思い出して、自分とペアの相手の行きたい国とその目的を1文の英語で書きましょう。書き終わったら周りの先生にチェックをもらいましょう。

① ぼく/わたしは(国)を訪れて(目的)がしたい。

② ペアの〇〇くん/〇〇さんは(国)を訪れて(目的)がしたい。

 Check

① I want to visit France to see soccer games.
② He wants to visit America to eat hamburgers.

使用したワークシート

5 ALT と教師が互いの行きたい国を尋ね合うスキットを見て、内容を聞き取る。

5 JTE と行きたい国を尋ね合うスキットを行い、内容を聞き取らせる。

6 ワークシートの対話表を使って、ペアで国紹介の発表に向けて練習する。

6 机間巡視をしながら、発音等の補助をする。

・ 前時の学習内容を思い出させ、リスニングのポイントを意識させる。

・ 生徒同士で助言し合いながら、相手に分かりやすく自然な対話を意識させる。

活動	自分	ALT
1 あいさつ 自己紹介	① Hello. /Hi. ② My name is OO. /I'm OO. ⑤ I'm OO. (fine, happy...). ⑥ And you?	③ Hello. /Hi,OO! ④ How are you? ⑦ I'm OO. (fine, happy...).
2 自分の考え を伝える	⑧ I want to visit OO.	① Where do you want to visit?
3 相手からの 質問	② Yes, I do. /No, I don't. ③ I see.	① OK! So, Do you like OO?
4 相手の考え を聞く	① Thank you. See you. /Bye.	② I want to visit OO to OO. ② See you. /Bye.

ワークシートの対話表

7 ALT と自分の行きたい国についての対話活動をする。

7 表現の確認をしながら、対話を進め、必要があれば助言する。

・ 生徒が自信をもって発表できるように、受容的に発話内容を聞き取るようにする。

・ ICT 機器を活用しながら、モニターに対話の流れのライドを提示することで、生徒に発表することの自信をもたせる。

ジェスチャー等を使って、相手に伝わるように発表を工夫していたか。

評価方法：発表の態度の観察

S1 : Hi. My name is OO.
ALT : Hi. Where do you want to visit?
S1 : I want to visit France to watch soccer games. Where do you want to visit?
ALT : I want to visit Egypt to see the Pyramids. Do you like the Pyramids?
S1 : Yes, I do. I like the Pyramids.
ALT : OK. See you.
S1 : See you. Bye!

ALT との対話例

8 本時の基本表現を確認のためのポストテストをする。

8 机間巡視をしながら、生徒の様子を確認する。

・ テスト前後の見とりを確実にし、生徒の変容を評価する。

単元で学んだ、重要語句・表現を理解できたか。

評価方法：ポストテストの記述内容

34分

10分

9	ポストテストの解答の確認をして、自己採点をする。	9	ポストテストの解答の発音する時に、発音の補助をする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に学習の理解度を把握させ、授業を通した成長を確認をさせる。
10	次時の活動について確認する。	10	次時の活動について確認させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の再確認をさせ、次時の確認をさせる。

(4) 検証授業Ⅰの手立てに関する成果と課題

研究の視点	研究の工夫に関する成果と課題	
学習意欲の向上につながる課題設定に関すること	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションの場面や目的を明確にした課題を設定し、旅行パンフレットや ICT 機器を用いて課題の提示を工夫することで、言語活動への知的好奇心が高まり、学習意欲の向上につながったことをリフレクションシートの授業の感想の記述内容 (P. 20) から見取ることができた。 ○ 授業開始時の帯活動として、ゲーム性を取り入れた質疑応答や既習事項の確認を行うことで、生徒の英語への学習意欲を高めることができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 帯活動の内容を既習事項の確認だけではなく、授業での言語活動と内容を関連付けて、生徒のより積極的な発言を促し、英語を使用することに自信をもたせるための効果的な発問や活動内容の工夫が必要である。
見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習面の変容を、授業前の学習の定着状況を知るプレテストと授業後の学習の伸びを知るポストテストで見取することで、既習事項の定着が見られ、生徒に学習を通した自身の成長を感じさせることができた。 ○ 英語学習の情意面の変容を測り、生徒に授業を通した成長を実感させるために、リフレクションシートを用いたことで、授業を通した成果と課題を把握させ、学習の見通しをもたせることにつながった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ● プレテストとポストテストの実施することで、学習面の定着と成長を実感させることはできたが、学習の見通しをもたせるための評価が不十分であった。 ● 表現活動における生徒のパフォーマンスを評価するために言語活動における評価項目を明確に示し、生徒の変容を見取る方法を検討すること。

(5) 検証授業Ⅱに向けて

コミュニケーションの目的を十分に理解させ、場面・状況を明確にする課題設定の工夫により、言語活動に目的意識をもって主体的に取り組む生徒の姿が見られた。また、リフレクションシートで、授業を通した成果と課題を振り返らせることで、自身の変容を肯定的に受け止め、成長を実感できた生徒が多く、次時の学習への高まりが見られた。

検証授業Ⅱへの改善点として、ALT との対話場面で緊張して、生徒が表現したいことを英語でうまく伝えられない場面が見られた。そこで、生徒が間違いを恐れずに発言できるように、授業

開始時の帯活動を言語活動の内容と関連させ、既習事項の活用が実際のコミュニケーションの場面でも有効であるという気付きを促したい。

また、検証授業Ⅰでの対話場面で「自分の表現は正しいだろうか」、「どうやって伝えたいことを表現すればよいか」等の点で戸惑う生徒の姿が見られるなど、生徒の言語活動の取組について、評価方法の検討が必要だと感じた。そこで、言語活動での生徒のパフォーマンスをリフレクションシートで振り返らせるだけでなく、言語活動の前に「何ができればよいか」を把握させ「どうすればよりよいものになるか」という具体的な評価項目を設定し、生徒に把握させることで、言語活動の取組に見通しをもたせることにつながると考えた。具体的には、パフォーマンスを評価するための「判断基準」を設定し、その評価項目を生徒と共有することで、生徒の英文の量や内容を適切に評価し、パフォーマンスの質の向上と、活動を通じた自身の成長の自覚を促したい。

5 検証授業Ⅱの実際

(1) 単元名及び実施時期等

ア 単元名「Presentation 2 町紹介」

イ 実施時期及び実施クラス

平成29年11月・12月 2年4組(10人)

ウ ねらい

自分の住む町の紹介したい場所について、相手に伝えたい情報を調査・整理して、紹介文を作成し、ALTに紹介する。また、紹介文作成上の評価項目を指導者と生徒が共有し、共通理解を行うことで、指導と評価の一体化を図る。単元末にはリフレクションシートを用いて、学習を振り返らせ、次の学習への見通しをもたせる。

(2) 検証授業Ⅱ実施上の工夫

検証授業Ⅰの反省点を踏まえ、授業実施上の手立てを次の表のようにまとめた。

研究の視点	研究の視点と関連した手立て
学習意欲の向上につながる課題設定の工夫	○ 学習を身近な事柄と結び付けた課題設定と提示の工夫 ○ 本時の学習内容と関連付けた帯活動の工夫
見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫	○ 「判断基準」を基にした、評価項目の設定と共有 ○ リフレクションシートの活用

ア 学習意欲の向上につながる課題設定の工夫

(ア) 学習を身近な事柄と結び付けた課題設定と提示の工夫(第1時 導入)

検証授業Ⅰでは、「将来行きたい国を伝える」というコミュニケーションの場面や目的を十分に生徒に理解させるために、旅行パンフレットを模した資料を配布し、ICT機器を活用しながら海外の国々についての情報を示すといった工夫を行ったところ、多くの生徒が学習に意欲的に取り組めたことが、授業後の生徒の感想から分かった。



写真2 課題設定の工夫

検証授業Ⅱでは、課題設定と提示の場面(写真2)

において学習意欲の向上を促すための工夫として、

ICT機器を活用して、本校のALTの先生から「加治木のお勧めの場所について教えてほしい」という主旨のビデオレターを提示した。新しく本校に赴任したALTの先生に、自分の町のお勧めの場所を紹介するというコミュニケーションの場面と目的の必要性を明確にした課題を提示し、言語活動に取り組ませることが、学習意欲の向上につながると考えた。

(4) 本時の学習内容と関連付けた帯活動の工夫

検証授業Ⅰでは既習の学習事項と授業における学習内容とを関連付けた発問を行うことで、授業中の発言の意欲を促すことを目的として行ったが、授業との関連性を意識した発問の工夫をすることが必要だと感じた。また、実態調査の結果から、対象生徒の多くが、学習した内容を、まとまりのある文の中での使用に自信をもてていないことが分かっている。

そこで、毎時間の授業開始時の帯活動と授業の学習内容を結び付け、自分の住む町のお薦めの場所について紹介する際に活用できるような表現を繰り返し練習させる工夫を取り入れることにした。単元を通した帯活動を取り入れることで、英語で表現することへの自信をもたせ、実際のお薦めの場所を紹介する場面でも使えることへの気付きを促し、英語を使って表現する学習意欲を向上させることにつながると考える。

a 授業で中心的に扱う既習の学習内容を想起させる活動（第1時 導入）

○ 活動の理由

- ・ お薦めの場所の紹介に必要な表現（be famous for, there 構文、動名詞）に十分に慣れ親しませるため。
- ・ 繰り返し答えさせることで、発言への抵抗感を軽減するため。

○ 学習の流れ

- ・ タブレット端末を使って、キーワードが書かれた画像（図11）をモニターに提示する。
- ・ 教師がキーワードを使って作成できる文を日本語で紹介し（例：「加治木はまんじゅうで有名です」）、次に生徒に自分たちでキーワードから英文“Ex) Kajiki **is famous for** Manju.”を作成させる。
- ・ また、there 構文を用いた英文の作り方を確認させるための画像（図12）“Ex) There **are** three books **on** the desk.” や動名詞を用いた英文“Ex) I like **enjoy eating** 〇〇.”を作成させるための画像も提示しながら、お薦めの場所の紹介文作成に必要な表現に慣れさせる。



図11 第1時の導入の場面①



図12 第1時の導入の場面②

b 紹介文作成に必要な表現の定着を確認する活動（第2時 導入）

○ 活動の理由

- ・ 前時で学習した、英語での「～について紹介します」、「～は〇〇で有名です」、「～することを楽しむことができます」等の紹介文の作成に必要な表現の作り方を確認して、表現の定着を図るため。
- ・ 自分が選択した紹介したいお薦めの場所以外でも、紹介に必要な表現を使って英文を作成できるようにするため。

- 学習の流れ
 - ・ タブレット端末を使って、キーワードが書かれた画像（図 13）をモニターに提示する。
 - ・ 生徒にキーワードを見せ、前時の表現を活用させながら “Ex) I will tell you about ○○. / There is ○○ near there. / You can enjoy -ing ○○.”等の英文を作成させる。

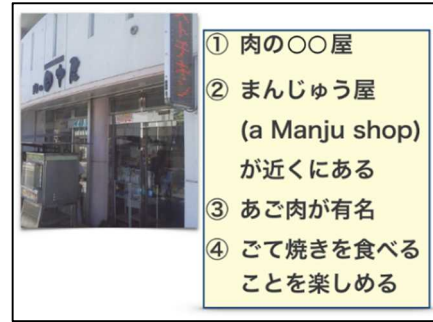


図 13 第 2 時の導入の場面

c ALT からの即興の質問に対して備える練習（第 3 時 導入）

- 活動の理由
 - ・ 紹介したいお薦めの場所を ALT に紹介した後に、紹介した場所に関する即興の質問に備え、焦らず答える練習をするため。
- 学習の流れ
 - ・ タブレット端末を使って、疑問詞（図 14）が書かれた画像をモニターに提示する。
 - ・ 生徒にキーワードに関する教師からの発問に対して即興で答えさせる。“Ex) Which do you like, beef or pork? – I like beef.”
 - ・ 質問は、既習の疑問詞を使った発問を行い、生徒が紹介したい場所について関連したものとする。

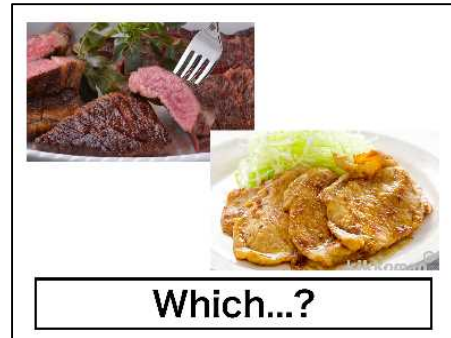


図 14 第 3 時の導入の場面

イ 見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫

(7) 単元の評価規準に基づいた「判断基準」の設定及び評価項目の共有

生徒に自身の英語学習における成長を実感させ、今後の学習につながる評価を行うためには、授業を通して「何が分かり、何ができるようになったのか」等の観点を明確化させ、自身の成長の自覚を促すことが必要である。

そこで、本単元では、言語活動における生徒のパフォーマンスを評価するための評価規準に基づく「判断基準」（図 15）を設定して、生徒と共有した。授業における評価項目を明確化し、評価項目を客観的に把握させた上で、生徒に言語活動に取り組ませることで、表現の内容や質を適切に評価し、生徒に活動を通じた自身の成長の自覚を促したい。

【評価規準】	○ これまでに学んだ表現を用いて、自分が紹介したい場所についてまとめた情報を、相手に英語で伝えることができる。
【評価の場面】	○ 紹介文の原稿の記述内容 ○ ALT に自分の紹介したい場所を伝える場面 ○ 授業時の振り返りシートでの記述内容
【評価の対象】	○ 紹介文の原稿 ○ ALT との対話場面の態度 ○ リフレクションシートでの記述内容
【判断の要素】	A 町紹介で使う表現の活用 I 相手を意識した内容構成 U 英語の量 E 相手を意識した伝え方
【判断基準 B】	A 町紹介のための既習事項を用いた表現を使って、紹介文を作っている。 I 町紹介に必要な情報が正しく含まれた、まとまりのある構成になっている。 U 5文以上の英文で、相手に情報を伝えている。 E 声量やジェスチャー等の表現の工夫を用いて、相手に伝わりやすい発表になるように表現を工夫している。 【予想される生徒の表現例】 ① I'm going to talk about ○○ Ramen in Kajiki. ② It is near the ○○ River Park / There is a park near ○○ Ramen. ③ It is famous for ramen. ④ I like to eat it. ⑤ You can enjoy eating delicious Hiyashi Chuka, too. ⑥ There are many ramen restaurants in Kajiki. ⑦ Please visit them.
【判断基準 A】	(判断基準 B)に加えて ○ 自分の紹介したい場所についてのより詳しい情報を表現するために、既習の表現を用いて、相手に意欲をもって伝えようとしている。また、相手の反応を見ながら、やり取りを連ね、相手からの質問にも即興で答えることができる。

図 15 単元の「判断基準」

また、紹介文を作成するためのワークシートには、授業中の紹介文作成や発表の評価項目（図16）を掲載して、生徒が常に書き方の基準と発表での大切なことを意識しつつ、活動に取り組めるようにした。「何を書いているかが分からない」、「どのくらい書けばいいかが分からない」という生徒の英語への不安を軽減し、自信を与えた上で、学習の見通しをもたせるための工夫である。

図16 ワークシートの評価項目欄

(イ) 単元末におけるリフレクション（振り返り）シートの活用

検証授業Ⅰでは、リフレクションシートを用いた学習の振り返りを単元末の場面で行ったが、多くの生徒が自己の変容を肯定的に受け止め、今後の課題を明らかにできていたことが分かり、学習の意欲付けにつながったことを感じた。検証授業Ⅱでも、リフレクションシート（図17）を用いた授業での自身の活動の振り返りを充実させ、気付いた点をまとめさせることで、次の学習への意欲をもたせることにつながる。作成上の工夫としては、検証授業Ⅱでは授業の感想を記述する欄を広く設けることにした（図18）。

図17 リフレクションシートの一部


前回のリフレクションシートによる授業の振り返りでは「楽しかった」等の単文で記入する生徒が多かった

図18 リフレクションシートの感想記入欄

ため、今回は生徒に授業を通じた自身の成長を具体的に文章で記入させ、学習の振り返りを充実させることにした。また、返却時には検証授業Ⅰと同様に指導者から授業を通じた、生徒の成長へのコメント「表現の工夫を取り入れることができました。」を添えて返却した。



(3) 検証授業Ⅱの実際


ア 第1時

学習過程	学習活動	時間配分	指導上の留意点 □ 評価及び評価方法
導入	<p>1 挨拶をする。</p> <p>2 帯活動をする。</p>  <p>第1時の帯活動</p> <p>生徒の発話例 • There are many shops in the town.</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習と関連した発問をして、内容に対する関心を高め、授業で使う重要表現の振り返りを行う。


展 開	<p>3 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 紹介したい場所の 情報をまとめよう。 </div> <p>4 教師の紹介したい場所についての情報の内容を理解する。</p> <p>5 紹介文作成のための条件を把握する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">5文以上で 表現している</td> <td style="width: 33%;">紹介に必要な情報を 正しく示している</td> <td style="width: 33%;">発表の工夫 ジェスチャー、アイコンタクト、声の大きさ、笑顔</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">評価項目の共有</p> <p>6 紹介したい場所の情報について、英語で表す方法を確認する。</p> <p>7 紹介したい場所について日本語でまとめてきた情報を基に、ワークシートに英語でまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>3 あなたが紹介したい場所を英語で書きましょう。</p> <p style="text-align: center;">I will tell you about...</p> <p style="text-align: center;">in Kaikid</p> <p>4 あなたが紹介したい場所の基本的な情報を英語でまとめてみましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">①</td> <td>紹介したい場所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>場所の近くに 店があるか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>店が有名か</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>David 先生が 得ができるか</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right; margin-top: 5px;">Check</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">ほんの 加減本</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">使用したワークシート</p>	5文以上で 表現している	紹介に必要な情報を 正しく示している	発表の工夫 ジェスチャー、アイコンタクト、声の大きさ、笑顔	①	紹介したい場所		②	場所の近くに 店があるか		③	店が有名か		④	David 先生が 得ができるか		<ul style="list-style-type: none"> • 本時の目標を意識させる。 • 生徒の活動への意欲を損なわないために、伝わりやすく、ゆっくりと発音し、ICT 機器を活用しながら、視覚的にも理解させる。 • 紹介文を作成する際の必要なポイントを明確にする。 • 紹介したい場所の情報を英語で表したモデル文を板書し、表現や書き方を確認させる。 • ペアで紹介文作成に必要なポイントを意識させながら、紹介文作成に必要な情報を英語でまとめさせる。 <p>□ 町紹介に必要な表現の使い方を正しく理解して、情報のまとめができたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 評価方法：ワークシートの 記述内容 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>① I will tell you about the ramen shop.</p> <p>② There is a park near there.</p> <p>③ The ramen shop is famous for <i>Hiyashi Chuka</i>.</p> <p>④ You can enjoy eating <i>gyoza</i>, too.</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">教師が示したモデル文</p>
5文以上で 表現している	紹介に必要な情報を 正しく示している	発表の工夫 ジェスチャー、アイコンタクト、声の大きさ、笑顔															
①	紹介したい場所																
②	場所の近くに 店があるか																
③	店が有名か																
④	David 先生が 得ができるか																
終 末	<p>8 本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>① 全員が紹介したい場所の情報をまとめられたか。</p> <p>② 紹介に必要な表現を理解できたか。</p> </div> <p>9 スライドを見ながら、次時の活動で必要なことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>① ジェスチャー ② 大きな声</p> <p>③ アイコンタクト ④ スマイル</p> </div> <p>10 挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒が紹介文作成のための情報を英語でまとめられたかを見取りを行い、次時の活動への自信もたせる。 • 次時で必要なジェスチャー等の表現を確認する。 • 元気よく挨拶をする。 <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">5 分</p>															

イ 第2時

学習過程	学習活動	時間配分	指導上の留意点 □ 評価及び評価方法
導入	<p>1 挨拶をする。</p> <p>2 帯活動をする。</p>  <div data-bbox="523 427 719 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 高岡公園 ② 大きい人参(a big carrot)が公園の中にある ③ 桜(cherry blossoms)が有名 ④ スポーツを楽しむ</p> </div> <p style="text-align: center;">第2時の帯活動</p>	10分	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容と関連した発問をし、内容に対する関心を高め、重要表現の振り返りを行う。 <div data-bbox="743 555 1249 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教師が示した英文</p> <ul style="list-style-type: none"> I will tell you about Takaoka park. There is a big carrot in the park. The park is famous for cherry blossoms. You can enjoy playing sports. </div>
展開	<p>3 本時の目標を確認する。</p> <div data-bbox="408 779 684 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>おすすめの場所の紹介文を作ろう。</p> </div> <p>4 教師の紹介したい場所についての紹介の流れを確認する。</p> <p>5 紹介文作成に必要な条件を把握する。</p> <p>6 紹介したい場所を英語で伝えるための表現と書き方を確認する。</p> <p>7 紹介文を作成し、完成後に正しく書けたか、ワークシートに教師のチェックをもらう。</p>  <p style="text-align: center;">使用したワークシート</p> <p>8 ペアで対話練習を行い、表現の工夫で気付いた点を互いのワークシートに書き、最後に教師のチェックをもらう。</p>	35分	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を意識させる。 前時との違い(感想、場所の特徴等)を意識させ、紹介の流れやジェスチャー等の表現の工夫について確認させる。 前時に設定した、紹介文作成の条件を確認させる。 紹介したい場所のモデル文を板書し、表現と書き方を確認させる。 机間指導を行い、紹介文作成の条件を満たしているかを見届け、対話活動を行うことの自信をもたせることに留意する。 <p>□ 紹介したい場所の情報をまとめ、紹介文を正しく書くことができたか。</p> <p>□ 町紹介に必要な表現の使い方を正しく理解して、英文の作成ができたか。</p> <div data-bbox="995 1816 1402 1872" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価方法：ワークシートの記述内容</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 発表の表現の工夫を相互に意識させ、アドバイスさせることで、次時の対話活動への自信を高めさせる。

			<input type="checkbox"/> 間違いを恐れずに、表現を工夫して、自分の考えを積極的に伝えようとしているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 評価方法：ワークシートの相互評価の記述内容及び対話の態度 </div>
終末	9 本時の学習内容を確認する。 10 スライドを見ながら、次時のALTとの対話活動における発表のポイントを確認する。  発表のポイントの確認 11 挨拶をする。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を振り返らせる。 次時の活動の流れや発表のポイント、表現の工夫等への気付きを、スライドを用いて再度意識させる。 元気よく挨拶をする。

ア 第3時

学習過程	学習活動	ALTの役割	時間配分	指導上の留意点 <input type="checkbox"/> 評価及び評価方法
	生徒の活動			
導入	1 挨拶をする。 2 帯活動をする。  第3時の帯活動	1 挨拶をする。 2 帯活動をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> Q: What can you play in this park? A: I can play soccer. </div> 教師の示す英文	10分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の発表でのALTとの即興の問答と関連付け、モニターに映る画像に関する質問に答えさせることで、発表時の自信をもたせる。
展開	3 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 加治木のお勧めの場所をDavid先生に伝えよう。 </div> 4 教師のALTへのお勧めの場所を伝えるためのスキットから、発表の流れを確認する。	3 目標の確認をさせる。 4 教師とスキットを行い、対話の流れを意識させる。	32分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を意識させる。 前時の学習内容から、ALTとの対話の流れを確認させる。
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>JTE: Hi. My name is Yusuke. ALT: Hi. Yusuke. How are you? JTE: Fine. OK. I'm going to tell a nice place in Kajiki. ALT: OK. Please tell me about it. JTE: I will tell you about ○○ ramen. There is a park near ○○ ramen. It is famous for <i>Hiyashi Chuka</i>. I like to eat it. You can enjoy eating ramen, too.</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>JTE: There are many ramen shops in Kajiki. Please visit them. Do you have any question? ALT: Is <i>Hiyashi Chuka</i> spicy? JTE: No, it isn't. ALT: Thank you. Bye! JTE: Bye.</p> </div> </div>		ALTとのスキットの内容	

	<p>5 前時の紹介文の原稿を使って、発表の練習をする。</p> <p>6 ALT に紹介したい場所を発表する。他の生徒の発表時は、付箋に気付いたことを書き出す。</p>	<p>5 机間指導をしながら、生徒の発音等の補助をする。</p> <p>6 発表を聞き、内容に関する質問を即興で問う。</p>	<p>32分</p> <ul style="list-style-type: none"> ジェスチャーや声量等の表現の工夫を相互に意識させながら、発表の準備をさせる。 ALT に発表内容を聞き取らせ、生徒に学習の達成感をもたすことを留意する。 <p><input type="checkbox"/> 間違いを恐れずに、表現を工夫して、自分の考えを積極的に伝えようとしているか。</p> <p>評価方法：発表態度の観察</p> <p><input type="checkbox"/> ALT からの質問に即興で答えることができたか。</p> <p>評価方法：質問を理解して、正しく答えることができたか。</p>
終末	<p>7 単元の振り返りを、リフレクションシートで行う。</p> <p>8 次時の活動について確認する。</p> <p>9 挨拶をする。</p>	<p>7 机間指導をして、生徒の様子を確認する。</p> <p>8 次時の活動について確認する。</p> <p>9 挨拶をする。</p>	<p>8分</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容を振り返らせ、感想を記述させることで、学習の成果や課題への意識を促す。 学習内容の再確認をさせ、次時の確認をさせる。 元気よく挨拶をする。

(4) 検証授業Ⅱの手立てに関する成果と課題

研究の視点	研究の工夫に関する成果と課題	
学習意欲の向上につながる課題設定に関すること	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実態調査と検証授業Ⅰでの結果を踏まえて、コミュニケーションの場面と目的を明確にし、十分に把握させることで、知的好奇心が高まったことがリフレクションシートの授業の感想記述欄から分かり、授業中も主体的に言語活動に取り組む姿勢が見られた。 ○ 授業開始時の帯活動における発問を既習内容や授業中の中心的な活動と関連付ける工夫を加え、生徒に学習した内容が実際のコミュニケーションの場で使えることを気付かせることで、授業中の発言に自信をもたせ、英語への学習意欲の向上につながった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元における、コミュニケーションの場面や目的を十分に理解させるための時間の確保すること。
見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫見	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「判断基準」を基にした評価項目を生徒と共有することで、学習のポイントが明確になり、授業中の活動に見通しをもって取り組ませることができた。

通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫	成 果	○ 検証授業Ⅰに引き続き、リフレクションシートを用いて、学習の振り返りを充実させることで、生徒に授業を通じた成長を実感させることにつながった。また感想記述欄を広げることで、より具体的に生徒に自身の成長を把握させることができた。
	課 題	● 授業中の活動の具体的な評価項目を言語活動の前に生徒と共有するという意図を理解させることに時間が掛かる場所もあった。

6 生徒の変容と考察

(1) 授業後の実態調査の結果から

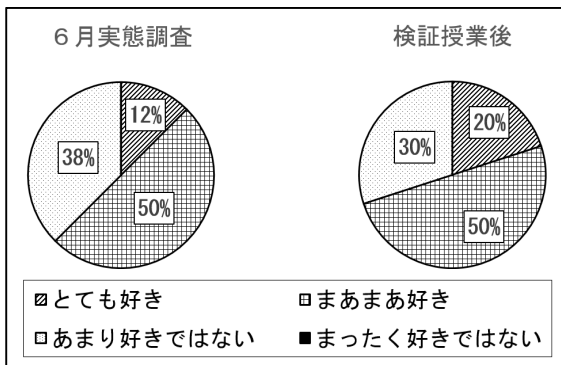


図 19 英語の授業が好きか

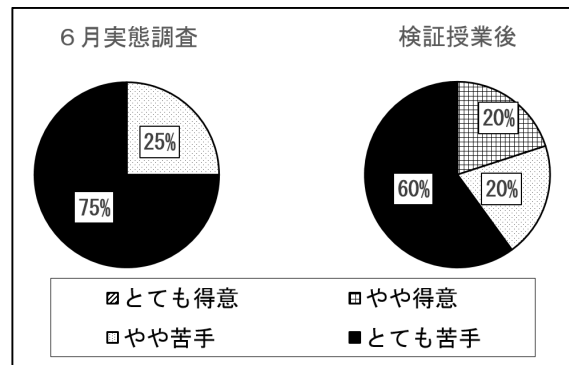


図 20 英語は得意か、苦手か

グラフは6月の対象生徒に実施した実態調査と検証授業後の『英語に関するアンケート』の結果の比較である。図 19 の「英語の授業が好きか」という質問には、6月の段階と比べ「とても好き」、「まあまあ好き」という肯定的な回答が増加が見られた。また、図 20 の「英語は得意か、苦手か」という質問にも、6月の段階では対象生徒全員が「やや苦手」、「とても苦手」と否定的な回答をしていたが、2回の検証授業を通して「やや得意」と感じる生徒が増えた。微増ではあるが、授業中の英語での成功体験を通して、英語での自己表現に対する自信と学習意欲を促進につながったことが考えられる。

図 21 の「将来、あなたはどの程度英語を使うと思うか」という質問には、半数以上の生徒が「使わない」と答えたが、「日常会話程度で使う」という人数が増えた。検証授業Ⅰ・Ⅱを通して、生徒が英語でコミュニケーションする姿を想定して、見通しをもって活動に取り組めたことで、英語を使う楽しさを実感できたことが理由だと考える。

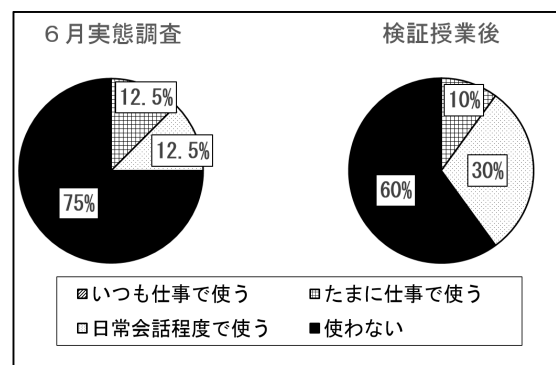


図 21 将来、あなたはどの程度英語を使うと思うか

(2) リフレクションシートから見る、研究に基づく手立てによる生徒の変容

ア 学習意欲の向上につながる学習課題の工夫

本研究において、生徒の英語学習への主体性を育むための学習意欲の向上を図る工夫として、コミュニケーションの場面や目的を明らかにした学習課題の設定及び提示の工夫と授業開始時の帯活動の工夫を取り入れた。英語の必要性は理解しているものの、実生活と結びつくものとして英語を捉えていなかった生徒が、検証授業での活動を通して、コミュニケーションの目

的を見だし、英語を使って自己表現することの楽しさや英語での発言に自信をもてたことがリフレクションシートの記述内容から分かった。

検証授業Ⅰでは、単元のテーマであった「夢の世界旅行」で「将来行きたい国を ALT の先生と伝え合う」という学習目標のもと、「世界の国々について知る」という活動を行った。ICT 機器を活用した国紹介や“加治木トラベル”のパンフレットの作成等の教材・教具の工夫を通して、コミュニケーションの場面と目的の理解を図った。

検証授業Ⅱでは、単元のテーマである「自分の町紹介」で、「加治木のお薦めの場所を紹介する」という活動を行った。中学校に新しく赴任した ALT からの「加治木のお薦めの場所について教えてほしい」という趣旨のビデオメッセージを見せることでコミュニケーションの必要性を理解させ、「(もし自分なら) 紹介される情報についてどんなことが知りたいだろうか」と考えさせる時間を作ることで、発表内容の質を向上させることへの意識を促した。

以下は学習課題の設定と提示の在り方に関する、生徒のリフレクションシートの感想記述欄からの抜粋である。

【検証授業Ⅰ】

- 難しいところや、何度やっても苦手なところが、ゲームや ALT などを通して苦手が少しだけ少なくなった。カードや加治木トラベルという資料を使っていて、楽しく学習することができた。
- 楽しく、分かりやすい授業だった。初めての質問系の授業で、新しい楽しさがあった。
- はじめて英語で行きたい国を言えて、すごくうれしかったし、すごく楽しかった。
- 外国に興味をもてた。

【検証授業Ⅱ】

- 今回の授業で身近な加治木の町をテーマにしている、とても楽しく、そして新しい発見もあった。難しい表現も一つ一つ分かりやすく教えてもらい、今まで苦手だった単語も少しだけ覚えることができた。反省点は、発表の時に緊張して上手く言えなかったところだ。沢山ほめてもらい、少しだけ自信を付けられた。
- 今回の授業を受けて、英語を話すときにすごく自信がもてた。外国人の David 先生と話してみてもすごくおもしろくて、授業もすごくおもしろかった。今回の授業でかなり英語に興味をもつことができた。
- 自分は英語が苦手だったが、今回の授業で、英語を伝える楽しさや分かった時の嬉しさなどがあり、英語を話すことに自信をもてた。この経験を生かして、もっともっと英語が楽しく受けられるようにしていきたい。

検証授業前の実態調査では、英語学習に対して苦手意識を感じていた生徒が多かったが、授業後には多くの生徒が活動を楽しめたことや、英語を使う楽しさを実感できたことが分かった。学習課題の設定と提示の工夫により、生徒に「なぜ英語でコミュニケーションを行う必要があるのか」という目的を理解させ、発話への自信をもたせ、生徒が英語を使いたくなるような工夫を授業に取り入れることで、英語に対して苦手意識をもつ生徒であっても学習意欲を高めることができ、主体的に学習に向かわせることができる。今後もこうした実践を積み重ねていくことで、生徒に自信をもたせることを心掛けるようにしたい。

イ 見通しをもった学習に取り組ませるための評価の工夫

本研究では、授業を通して、生徒に自身の英語学習における変容を実感させ、学習の成果と課題を理解させ、見通しをもった学習に取り組ませることを意識した。

検証授業Ⅰでは、「英語のテストで思うような点が取れない」という実態調査から分かった、生徒が英語に苦手意識をもつ大きな要因に着目し、授業を通じた学習面での成長を実感させる

ために、授業前後にプレテストとポストテストを実施した。プレテストとポストテストの結果を比較した結果、ほぼ全ての生徒が授業で使った表現を生かして、点数を伸ばすことができ、生徒に学習面での成長を実感させることができた。

検証授業Ⅱでは、授業中の生徒のパフォーマンスを評価するために「判断基準」を基にした評価項目を作成し、生徒と共有することで、指導と評価の一体化を図った。授業の中心的な言語活動において「どうすればよりよいものになるか」等の基準を把握させることで、生徒の取組を適切に評価するための工夫を図り、活動を通した自身の成長の自覚を促すことを意識した。評価項目を生徒と共有することで、見通しをもった活動に取り組ませることができた。

以下は評価の工夫に関する、生徒のリフレクションシートの感想記述欄からの抜粋である。

【検証授業Ⅰ】

- 分かるようになった英語を友達や先生に発表するのが楽しかった。
- 授業の最後に習った内容を確認めると、英語ができるようになった。

【検証授業Ⅱ】

- 今回の David 先生に加治木の有名なところを言うときに少し間違えたけど、最後まで言い切れたのでよかった。そして反省は、やっぱり単語を書くのが苦手だ。今回の授業でもあまり書けなかったからしっかり書けるようになりたい。
- 授業はとても分かりやすく、基準があったので英文の書き方などは分かった。周りの人と話すことができ、分からないところを友達に聞いたのがよかった。
- 英語を読むことができても書くことができないので、書くところまでしっかり身に付けたい。
- 今回の授業で自分が相手に教えたいことを伝える表現が分かった。書いて言うのは得意だけど、相手に伝えることは苦手だったので正直緊張していたが、この授業で自信がついた。

今回の研究で取り入れた評価方法の工夫により、生徒に授業を通した成長を実感させ、学習の課題を把握させ、学習に見通しをもたせることにつながったことが分かった。今後も評価方法の工夫を重ね、授業を通して「何ができるようになったか」、「今後の学習ではどのような点に気を付ければよいか」を把握させることで、英語学習への興味・関心を高め、主体的に学習に向かう姿勢を育んでいきたい。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- 実態調査の実施・分析を通して、主体的な学びを促進するには、学習意欲の向上が必要なことが分かった。
- 生徒の学習意欲を向上させる学習課題の設定と提示の工夫を取り入れ、コミュニケーションの場面や目的を十分に理解させた授業を実践することで、英語で自己表現することへの知的好奇心を高め、主体的な学びを促すことができた。
- 生徒が活動の成果を把握できるよう、課題を認識させ、今後の学習に見通しをもたせることができた。

2 研究の課題

- 課題設定を工夫し、コミュニケーションの目的と場面を十分に理解させることで、学習意欲の向上が見られたが、生徒に活動の意図を把握させることに時間がかかった。今後も課題設定の工夫の取組を積み上げていくことで、時間の短縮を図りたい。
- 評価方法のさらなる充実を図り、生徒に学習を通じた成長を実感させることで、生徒に英語を学習する価値を実感させ、主体的に学びに向かう態度を育てていきたい。

3 今後について

本研究では、コミュニケーションの場面と目的を明確にした課題設定の工夫と学習に見通しをもたせるための評価方法の工夫を通して、生徒の学習意欲の向上を促し、主体的に学びに向かう姿を育てることを目的として研究を進めてきた。検証授業Ⅰ・Ⅱで実施した授業への工夫を通して、多くの生徒が英語学習への興味・関心を高め、英語で自己表現することに自信をもつことができたという一定の成果もあったが、1時間の授業の中で、どのようにコミュニケーションの意義を理解させるべきか、学習意欲を持続させ、継続的に主体的に学びに向かわせるための手立てはどうあるべきか等の解決策を考案していくことが今後の課題である。

しかし、検証授業Ⅰ・Ⅱを通して、**図 22**のように、授業を通して学んだことを肯定的に捉え、英語を使って「次は〇〇がしたい」という思いが芽生えた生徒も多い。本研究は対象生徒を英語に苦手意識をもつ生徒に定めて研究を進めてきたが、生徒がどのような点で学習につまずきを感じているかを実態調査により把握し、有効だと考えられる工夫を授業に取り入れることで、学習面や情意面での成長を見ることができた。

- 2年生になって単語をたくさん覚えられるようになったから、次は発音に力を入れていきたい。
- もう少し英語を学習して、英語の本を読めるようになりたい。
- 英語でたまには家族と話したい。
- 英語を聞いて、だいたい分かるようになった。
- 英語で自分が言いたいことを書く。
- 日常に少しでも取り入れる。

図 22 「英語を使って、次に何がしたいか」

「授業で学んだ内容を活用した経験が少ない」、「英語を学んでも日常生活では役に立たない」という実態調査の結果を踏まえ、なぜそのような認識に至ったのか、どのような点を改善することが生徒の学習意欲を向上させ、主体的に学びに向かわせることにつながるのかという視点をもって、授業を改善し続ける必要がある。英語に苦手意識をもつ生徒の気持ちに寄り添い、生徒が自ら進んで英語を学びたいという気持ちを育むために、更に研究を深めていきたい。

〈引用文献〉

- 1) 文部科学省 『中学校外国語指導要領 外国語編』 2010年
2) 文部科学省 『英語教育改善のための
英語力調査事業（中学校）』 報告書』 2017年

〈参考文献〉

- 文部科学省 『中学校学習指導要領』 2008年 日本文教出版
○ 文部科学省 『中学校学習指導要領解説外国語編』 2008年 日本文教出版
○ 文部科学省 『小学校学習指導要領』 2008年 日本文教出版
○ 文部科学省 『小学校学習指導要領解説外国語活動編』 2008年 日本文教出版
○ 文部科学省 『中学校学習指導要領』 2017年
○ 文部科学省 『中学校学習指導要領解説外国語編』 2017年
○ 文部科学省 『小学校学習指導用要領解説外国語活動編』 2017年
○ 文部科学省 『小学校学習指導要領外国語編』 2017年
○ 鹿児島県総合教育センター 指導資料 外国語第81号 2016年
○ 和泉 伸一 編著 『フォーカス・オン・フォームと
CLILの英語授業』 2016年 アルク
○ 和泉 進一 編著 『第2 言語習得と母語習得から
「言葉の学び」を考える』 2016年 アルク
○ 白井 恭弘 編著 『英語教師のための第二言語習得論入門』 2012年 大修館書店
○ 巽 徹 編著 『アクティブ・ラーニングを位置づけた
中学校英語科の授業プラン』 2016年 明治図書
○ 上山 晋平 編著 『英語教師のための
アクティブ・ラーニングガイドブック』 2016年 明治図書
○ 上山 晋平 編著 『英語テストづくり&指導
完全ガイドブック』 2014年 明治図書
○ 上山 晋平 編著 『英語家庭学習指導ガイドブック』 2011年 明治図書
○ 山本 崇雄 編著 『アクティブ・ラーニング英語授業』 2015年 学陽書房
○ Sue Fostaty Young他 編著 『「主体的学び」につなげる
評価と学習方法』 2013年 東信堂
○ 西川 純 編著 『「学び合い」を成功させる
教師の言葉かけ』 2015年 東洋館出版社
○ 投野 由紀夫 編 『英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』 2013年 大修館書店
○ 田中 武夫 編著 『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』 2003年 大修館書店
○ 川村 光一 編著 『学習困難を克服する！
英語授業アイデア&スーパーワーク』 2015年 明治図書
○ 佐藤 一嘉 編著 『ワーク&評価表ですぐに使える!英語授業を変える
パフォーマンス・テスト』 2014年 明治図書
○ 北尾 倫彦 編著 『観点別学習状況の評価基準と判定基準』 2011年 図書文化社

長期研修者〔山口 祐介〕

担当所員〔永山 愛子〕

【研究の概要】

本研究は、課題設定と評価方法の工夫を通して、生徒の主体的な学びを促進する中学校外国語における学習指導の在り方を明らかにするものである。

課題設定の工夫としては、言語活動の場面や状況を十分に理解させ、コミュニケーションの目的を明らかにした課題を設定した上で、生徒に活動に取り組みせる工夫を取り入れた。また、学習を通じた成長を実感させ、見通しをもった学習に取り組みせるための評価方法の工夫を取り入れることで、生徒の英語の学習意欲を高め、主体的な学びに向かう態度を育む授業を実践した。

その結果、課題設定の工夫により生徒の知的好奇心が高まり、学習した内容を活用した言語活動への取組を通して、英語を使ってコミュニケーションを行うことへの自信をもつことができた。また、学習の振り返りにより、授業を通じた成果と課題を明らかにし、見通しをもった学習に取り組みせることができた。

【担当所員の所見】

本研究は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の具体策として、中学校外国語科の授業における生徒の主体的な学びの促進を目標に取り組んだものである。研究において、指導上の工夫として提案したコミュニケーションの目的を明らかにした課題を設定し、生徒が成長を実感できる評価方法を用い、スモールステップを踏ませながら丁寧に授業を展開していく手法は、英語に苦手意識をもつ中学生にとって、自らの考えや気持ちを表現し相手に伝える力の育成に非常に効果的なものであった。

本研究の成果が広く還元されることで、英語に対する生徒の苦手意識が払拭され、自律的な学習者として英語学習を楽しみ、かつ自信をもって継続できる生徒の育成に寄与することと期待する。